



平成 28 年 7 月 27 日

各 位

会 社 名 株式会社ジーンテクノサイエンス  
代表者名 代表取締役社長 河南 雅 成  
(コード番号：4584 東証マザーズ)  
問 合 せ 先 取 締 役 C F O 谷 匡 治  
(TEL. 03-3517-1353)

**科学技術振興機構 平成 28 年度マッチングプランナープログラム  
「企業ニーズ解決試験」の採択決定に関するお知らせ  
(課題名：新型インフルエンザ治療薬合成中間体の実用的不斉合成法の開発)**

この度、国立研究開発法人科学技術振興機構（略称「JST」）が募集する平成 28 年度マッチングプランナープログラム「企業ニーズ解決試験」において、室蘭工業大学及び当社の共同研究テーマが採択されましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 共同研究開始の経緯

当社は、安定的な収益基盤を確立するためバイオシミラー事業に経営資源を集中しておりますが、新薬事業においても効率的に新規シーズの探索を進めております。このような活動の中で、平成 26 年 7 月 24 日に公表しました公益財団法人北海道科学技術総合振興センター（略称「ノーステック財団」）による「平成 26 年度 ノーステック財団 研究開発助成事業 イノベーション創出研究支援事業 スタートアップ研究補助金」に採択された室蘭工業大学等との共同研究テーマ（課題名：有機分子触媒を用いた新規抗インフルエンザウイルス薬の開発）を支援してまいりました。この度、これまでの室蘭工業大学における新型インフルエンザ治療薬の研究成果を継続的に発展させることが JST による当該制度の目的である「地域企業ニーズを解決し、高付加価値・競争力のある地域科学技術イノベーションの創出」に合致すると認められ、採択決定に至ったものであります。なお、本プログラムの申請者は室蘭工業大学であり、研究開発費補助等の支援は同大学が受けることとなり、当社は共同研究者の立場として支援して参ります。

2. 共同研究の内容及び目的

近年、新型インフルエンザが世界的に大流行し、多くの死者が出ていることなどからその脅威が強くなり心配され、日本においても社会生活や経済に大きな影響を与えております。このような背景にはタミフル耐性ウイルスの出現により、現在の第一選択薬であるタミフルの効能が薄れていることなどが要因として挙げられ、耐性ウイルスに有効な新しいタミフル類縁化合物を開発することが急務となっております。本事業では室蘭工業大学及び当社の共同研究グループにより、新規抗インフルエンザウイルス薬の開発に有効な有機物質の効率的化学合成法の開発を行います。具体的には、様々なタミフル類縁化合物を短工程で化学合成するために役立つ合成中間体である光学活性イソキヌクリジン誘導体を、有機分子触媒を使用して高化学収率かつ高光学収率で製造するために有効な実用的化学合成法の開発を行います。

### 3. 今後の見通し

本件における研究開発の結果得られた成果物につきましては、同大学と協議の下、事業化に向けて鋭意推進して参ります。なお、上述のとおり当社は直接的に研究開発費補助等を受ける立場ではないため、本件による当社の平成 29 年 3 月期の業績への影響は軽微の見通しであります。

以 上